

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	アスク向日保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	社団法人京都府保育協会		

平成23年2月9日

総 評	<p>開設4年目を迎えるアスク向日保育園は、向日市の北部、阪急沿線の西側徒歩5分の田畑に囲まれた広々とした環境のなかにあります。</p> <p>安全対策としてIDカードで開閉する玄関ドアを導入し安心・安全を第一に園舎は整備されています。また、手作りの玩具が豊富で、モノを与えるだけではなく創造を大切にする子ども目線の保育の工夫が随所に見られました。また、保育者は常に利用者のニーズを把握し、積極的に保育に反映していこうという姿勢があります。管理者によって保育理念に沿った体制が敷かれ、地域に根ざした保育事業を推進しています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの質の向上に向け、職員の自己評価を年に3回行うなど改善を図っています。また今回で3度目となる第三者評価についても、創設以来1年毎に受診し、評価結果について見直しを図っています。 ・各種保育マニュアルは整備されており、看護師による職員への研修も実施しています。 ・園外保育では、豊富な地域の資源を活かして、自然や社会と関われる取り組みを積極的に行っています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は保育業務の周知や、保育計画の取り組みにむけて積極的に取り組んでいます。会議など検討の場での情報を全職員へ周知する取り組みや仕組みを工夫されることが望ましいでしょう。 ・安全・事故防止マニュアルは各種整えられていますが、その内容を全職員に周知し、定期的に見直す体制を整えられることが望ましいでしょう。 ・保育に関する必要書類は完備されています。今後は、自己評価で得られた気づきを改善されることが望ましいでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	非該当	非該当
	I-2-(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	B
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	B
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

- ・ 保育の理念、方針、目標は明文化され、入園の案内やしおりに明記されています。入園説明時に保護者に対して説明がなされ、職員にも周知されています。
- ・ 保育業務マニュアルの中で、管理者の責任を明確にされ、運営委員会、リーダーズ会議、代表者会議において園長のリーダーシップのもと保育課程、事業計画の周知が図られています。
- ・ 保育業務マニュアルは改訂の都度、全職員に回覧され周知できるようになっています。会議など検討の場での情報を全職員へ周知する取り組みや仕組みを工夫されることが望ましいでしょう。
- ・ 園主体の運営委員会には参加する保護者に偏りがでることから、利用者主体の保護者会の推進が期待されます。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A	
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A	
		① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	A	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	A	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	B
			② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	C	B
	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	B		
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A		
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	C	B		
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	B	B	
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A	
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	C	B	
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A	

[自由記述欄]

- ・ 経営管理は(株)日本保育サービスの管理に基づき実施され、人事管理についても管理会社の作成するマニュアルに基づき研修等による人材育成がされています。
- ・ 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示され、パソコンによって人材システム、人事体制の管理がなされていますが、改善・見直し・検討について工夫されることが望ましいでしょう。
- ・ 個別の職員の研修計画を立て、前期・後期で反省や振り返り等を園長の管理のもと行っています。園全体として分析を加え、その結果を研修計画に生かせるような工夫をされることが望ましいでしょう。
- ・ 実習生の受け入れ態勢はマニュアル化され整備されています。近隣の高校・保育士養成校などの情報を取り入れ、積極的な人材育成の取り組みをされることが望ましいでしょう。
- ・ 地域支援事業（園庭開放、絵本の読み聞かせ、ベビーマッサージ講習）の取り組みをはじめ、ボランティア受け入れの実績があります。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	B	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	B	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	B	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			B	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B

[自由記述欄]

- ・ プライバシー保護や苦情解決に関する規定がマニュアル化され、職員への周知は、職員会議を活用して行っています。
- ・ サービスの質の向上に向け、職員の自己評価を年に3回行うなど改善を図っています。また今回で3回目となる第三者評価についても、創設以来1年毎に受診し、評価結果について見直しを図っています。
- ・ 利用者に関する記録の管理体制が確立し、保護者から情報開示を求められる場合に関する規定を定めています。また、園児一人ひとりの状況について、情報を共有するケース会議が月に一回定期的に開かれています。
- ・ 利用者への情報の提供の為にホームページが作成されています。園内掲示については、掲示位置の配慮が加わることが望ましいでしょう。
- ・ 転園等のサービスの継続性への配慮については、必要に応じて文書化されることが望ましいでしょう。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	B	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	B	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかがかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	B	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	A

[自由記述欄]

- ・各種保育マニュアルは整備されており、看護師による職員への研修も実施しています。
- ・子どもたちが配膳の手伝いをしてテラスで食事をするなど、季節に応じて食事を楽しむ取り組みがなされています。
- ・保育室では牛乳パック、段ボール、布などで作られた手作りのものが保育に活用され、修繕点検なども行き届いています。
- ・異年齢活動を取り入れ、子どもたちが様々な表現活動ができるように配慮されています。
- ・週1回、外国人講師による異文化に触れる機会を設けています。
- ・園外保育では、豊富な地域の資源を活かして、自然や社会と関われる取り組みを積極的に行っています。
- ・長時間にわたる保育を考慮して、子どもたちが落ち着けるコーナーを作り、補食も提供しています。
- ・障がい児保育も個別の計画表をたてて対応しており、現在も受け入れ体制が整っています。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	非該当	非該当

[自由記述欄]

- ・ 乳児は毎日の連絡帳、幼児は送迎時の保護者との丁寧な関わりのなかで連携を図り、情報交換を行っています。
- ・ 子どもの個人記録は同じ保育者ばかりが記入することにならないよう配慮し、家庭への適切な育児支援をしています。
- ・ 年2回個人面談を実施し、面談内容によって支援の取り組みを見直しています。また、面談の記録は児童票に残し、子どもたちの育ちを振り返ることができます。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	B	B
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	B
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	A

[自由記述欄]

- ・ 安全、事故防止のチェックリスト、マニュアルは整備されていますが、その内容を全職員に周知し、定期的に見直す体制を整えられることが望ましいでしょう。
- ・ アクシデント・トラブルレポートを録り、統計を年度末に出しています。
- ・ 園外活動時には携帯電話（GPS機能）を携行し、安全対策に取り組んでいます。
- ・ 安全対策としてIDカードで開閉する玄関ドアを導入し、管理者が対応できるような環境を整備しています。